

「出題の意図」

選抜区分	2021年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：課題論文）
出題の意図（課題論文） （評価のポイント）	<p>1. 課題論文における出題の背景と求める能力</p> <p>今年度はこれまでの試験と同様に、次の三つの点、すなわち（1）地域創生やまちづくりを考えるうえで重要な示唆を有する文章であること、（2）地域創生学群が学生に育てたいと考えている能力について関連する内容を有していること、（3）一般選抜であることを考慮し、一般的かつ平易な文章であることを出題文の選定基準とした。結果、許斐健太・森川郁子による東洋経済の記事「特集 AI時代に食える仕事 食えない仕事」を出題文とした。</p> <p>設問は、「以下の文章を踏まえた上で、「タクシー運転手」という職業が20年以内に消滅するか否かについて、あなたの考えを400字以内で述べなさい」とした。</p> <p>設問の意図は、本文の内容をしっかりと把握する読解力を持っているか、また、それをもとに自分の考えを論理立てて記述する能力を持っているかを見ることにある。加えて、正しい日本語を使うことができるか、一定の語彙力を有しているかも評価のポイントとした。</p> <p>2. 解説</p> <p>この文章は、近い将来、タクシー運転手の機械による代替可能性について、二つの主張から検討したものである。一つ目は、フレイとオズボーンの論文と同様の手法を用いて「消滅する可能性が高い」と結論付けたある研究所の調査結果である。二つ目は、仕事は様々なタスクから成り、その細かいタスクが機械作業に置き換わり、タクシー運転手が機械そのものに置き換わるわけではないという指摘である。</p> <p>従って、解答の前半部では、この相反する二つの主張を簡潔にまとめることが求められ、後半部では、まとめた内容をもとに、自分の意見、つまり、消滅するのか、消滅しないのかを論理的に述べていくことが求められる。この前半部、後半部がわかりやすく論理的に書かれている解答に対して高い評価を与えている。</p> <p>受験生の答案では、相反する二つの主張、および、論点を過不足なく記述されているものはそれほど多くなかった。しかしながら、自分の意見を主張し、その理由を論理的に説明している解答については一定数あった。</p> <p>最後に、受験生の主張内容、つまり、タクシー運転手は消滅する、消滅しないではなく、自分の主張に対して論理的に説得力を持った記述ができたかどうかで評価していることを付け加えておく。</p>

「出題の意図」

選抜区分	2021年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 (評価のポイント)	<p>一般選抜入試では、地域社会の諸問題に強い関心示し、探究心を持つ学生を求めている。集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを明確に表現できること、地域の方々と協働していくための基本的なコミュニケーション能力を有していること、地域創生の担い手としての使命感をもち、課題に対して主体的かつ積極的に関わろうとしていること等が重要になる。したがって評価のポイントもこれらの点に置かれている。</p> <p>今回の一般選抜試験における集団討論では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、事前に受験生に同一の課題を示した。</p> <p>具体的には、地域創生学群で1・2年生向けの新たな実習プログラムを導入するという状況を想定し、各自が考えたプログラム案をグループでの議論を通して一つの実習プログラム案としてまとめさせ、提示させるというものであった。</p> <p>出題の意図としては、上記評価ポイントに加え、地域創生学群のこれまでの実習上の取り組みを一定程度理解しているか、地域課題や社会情勢に対する基礎的な知識を持っているか、また、それに対する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、現実的な提案へと落とし込むことができるか、ということを見定めるところにあった。</p>